



哲学的能力尺度作成の試み

大阪府立大学高等教育推進機構
特認助教 畑野快

1

今日の発表

- 評価の種類
- 信頼性・妥当性
- 哲学的能力尺度の作成
- 今後の課題

能力を測定する方法（BANTA, 2010）

直接評価

- 人のパフォーマンスを直接評価する方法（e.g., テスト、レポート、実技）
- 結果に対する信頼性は間接評価に比べて高いが実施にコストが高い

間接評価

- “何ができるとおもっているのか”を通して間接的にパフォーマンスを評価する方法（e.g., アンケート調査等）
- 結果に対する信頼性は直接評価に比べて低いコストは低い

3

信頼性と妥当性

■ 信頼性・・・測定の精度

- **安定性**：同じ人に同じ条件で同じテストを行った場合、同じ結果が出るかどうか安定性

⇒再検査信頼性：同じ人に短期間で二回調査を行い、その相関係数を確認する（.80程度）

- **等質性**：同じような(同一のものとそうではない)質問に、同じような回答をするか

⇒項目間相関の平均を表すクロンバックの α 係数（.70程度）

4

信頼性と妥当性

■ 妥当性・・・測りたいものを測れているかどうか

- **内容的妥当性**：テスト・質問紙に用いられている内容が自分の調べたいことを含んでいるか

⇒ 専門家で項目の内容を検討する

- **基準関連妥当性**：自分の作成したテストや質問紙と関連のあるテストや質問紙と関連するか

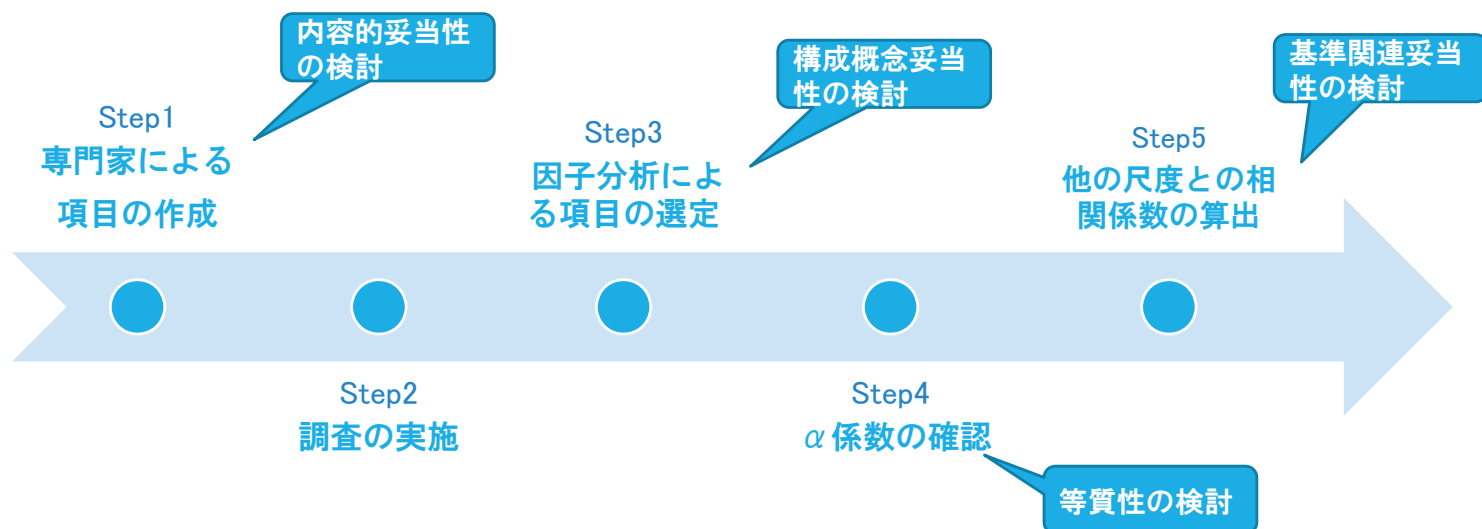
⇒ 作成した尺度と別の尺度の相関関係を確認する

- **構成概念妥当性**：テストや質問紙全体が想定したものを測っているかどうか

⇒ 因子分析によって確認する

5

哲学的能力尺度作成の手続き



6

哲学的能力尺度項目の作成

■ 内容的妥当性の検討

- 哲学分野における「参照基準」，海外諸大学の哲学科が公表する学修成果を調査し，また哲学科の学生・卒業生，さらには哲学科の卒業生を雇用する雇用主にインタビューを行った。
- その内容を哲学・教育心理学を専門とする教員とともに検討し，その結果得られた33項目を哲学的能力尺度項目候補とした

■ 基準関連妥当性の検討

- 哲学的能力は物事を批判的に考えると同時に、他者との対話を基に育まれる
→ 批判的思考態度、コミュニケーションスキルと正の関連が予測される

7

調査対象者と調査時期

- 関東・関西の大学で哲学の授業を受けている大学1～4年生141名
- オンライン回答システムのREASを使用
- 2016年10～12月に実施
- 使用尺度 哲学的能力尺度項目候補（33項目）、コミュニケーションスキルに関する項目（6項目，5件法；藤本・大坊，2007）、批判的思考態度尺度の「客観性」（7項目，5件法；平山・楠見，2004）

8

項目	因子		
	1	2	3
Q8 自分や他者が議論しているときに、それぞれの意見がどこで食い違っているのかを指摘できる	.709	.047	-.113
Q9 自分や他者が議論しているときに、それぞれの意見の良い所と悪いところを比べることができる	.666	-.027	.032
Q10 自分や他者が議論しているときに、これまでに無かった新しい意見を付け加えることができる	.643	.005	.029
Q4 他者の意見に優れた点があれば、それを伸ばす手伝いができる	.629	-.024	-.027
Q2 他者の意見に論理的な欠点があれば、それを直す手伝いができる	.581	-.074	.132
Q19 他者の意見を再現したり、紹介するのが得意だ	.537	.005	-.014
Q30 新しく覚えた知識や考え方を、別の知識や考え方と混ぜたり組み合わせるのが得意だ	.496	.116	.133
Q33 現代の哲学的な問題をよく知っている	.001	.817	.039
Q31 哲学の様々な分野の区分についてよく知っている	.059	.814	-.019
Q32 過去の哲学者の考え方をよく知っている	-.014	.776	-.012
Q27 自分にとって難しい言葉や概念に接すると、それについて調べたいと思う	-.186	.056	.911
Q21 文献資料を読む際、わからない言葉があれば徹底的に調べる	-.060	.101	.531
Q26 答えがなかなか出ない問題でも、時間をかけて考えぬくことができる	.123	-.118	.480
Q23 文献資料を読む際、理解できない考え方が見つければ、それが理解できるまで考える	.201	.000	.469
Q17 何かを論じる際には、自分の主張だけでなくそれを支える理由もセットで考えている	.252	-.098	.436

哲学的議論
構築力

哲学的知識

哲学的態度

9

*最尤法, Promax回転

Table 2 各尺度間の相関係数

	批判的思考態度・客観性	自分の感情や行動をうまくコントロールする	自分の考えや気持ちをうまく表現する	相手の伝えたい考えや気持ちを正しく読み取る	自分の意見や立場を相手に受け入れてもらえるように主張する	相手を尊重して相手の意見や立場を理解する	周囲の人間関係にはたらきかけ良好な状態に調整する
哲学的議論構築力	.491**	.350**	.368**	.532**	.398**	.427**	.513**
哲学的知識	.165*	.141	.242**	.226**	.216*	.187*	.257**
哲学的態度	.436**	.168*	.260**	.300**	.136	.416**	.273**

* $p < .05$, ** $p < .01$

考察

- 因子分析の結果から3因子構造を採用
- α 係数の値は.759 ~ .856であり基準から判断すると問題なし
- 相関関係
 - 理論的に関連すると考えられる批判的思考、コミュニケーションスキルと一定の関連がみられたことから一定の基準関連妥当性は確認できた
 - ただし3下位次元ごとの特徴が十分に確認できたわけではない

11

今後の課題

- 今回の検討で哲学的能力尺度の信頼性と妥当性の検討は十分なのか？
- もちろんNo（今回は一部）
- サンプルの問題、妥当性の検討等々
 - 心理尺度の検討は永久に妥当性の検討みたいなもの
 - これから何度も調査しながらその妥当性を確認していく

12



Thank you for your attention!

kai.hatano@las.osakafu-u.ac.jp